

高崎城下町遺跡

城址周辺土地区画整理事業
都市計画道路高崎駅西口線築造に伴う
埋蔵文化財発掘調査概報

1 9 9 3

高 崎 市 教 育 委 員 会

序

現在、群馬県の玄関である高崎駅周辺は、都市再開発事業・土地区画整理事業等により生まれ変わりつつあります。駅西口では、再開発ビルが建ち並び、駅前広場とともにペDESTリアンデッキが築造され、駅前より延びる都市計画道路高崎駅西口線もシンボルロードとして整備が進められています。

ここに報告する「高崎城下町遺跡」は、城址周辺土地区画整理事業に伴う都市計画道路高崎駅西口線築造工事に先立ち実施した発掘調査です。シンボルロード予定地におけるこの調査により、調査例の少ない旧市街地において貴重な資料を得ることができました。

最後に、発掘調査に御協力・御指導をいただいた関係諸機関の方々には厚く御礼申し上げます。

平成5年3月
高崎市教育委員会
教育長 網 中 正 昭

例 言

- 本書は、城址周辺十地区画整理事業都市計画道路高崎駅西口線築造に伴う高崎市檜物町、鍛冶町、宮元町地内における埋蔵文化財発掘調査概報である。
- 調査期間 発掘調査 1991年9月18日～10月18日
1992年2月5日～3月25日
資料整理 1992年3月23日～1993年3月31日
- 発掘調査は、高崎市教育委員会の直営事業として実施した。
調査組織 文化振興課埋蔵文化財係
事務局 石井忠樹（平成3年度） 武井洋一 神戸聖語（平成4年度）
土屋秀夫 設楽義子
調査担当 宮寺 久（平成3年度） 志田 登
- 本書の編集は志田が行った。
- 表土掘削は井上工業株式会社、基準点測量は株式会社小和瀬測量事務所それぞれ委託した。
- 発掘調査にあたり、開発地区画整理1課・地元地権者の方々に御協力をいただいた。
- 本道路の、高崎市教育委員会埋蔵文化財発掘調査の遺跡番号は197になる。
- 遺物及び図面等の資料は、高崎市教育委員会が一括して保管している。

凡 例

- 本書内では、遺構は下記の略号で表記した。
SB→建物 SD→溝 SE→井戸 SK→土坑 SX→不明遺構
SI→堅穴住居（資料整理時にはSAを使用） SG→礎石（資料整理時：礎石）
図中のSは石を表す。
- 遺構平面図の北方向は座標北である。
- 遺構平面図・遺物実測図には、各図スケールを付し、縮尺を表した。
- 図中の標高単位はメートルである。
- 本書中の周辺の遺跡図は高崎市5,000分の1都市計画図、周辺の地形と調査区図は高崎市2,500分の1都市計画図を使用した。

目 次

序	
例言・凡例	
I 調査に至る経緯	1
II 周辺の地形と遺跡	2
III 調査の方法と経過	4
(1) 調査の方法	4
(2) 調査の経過	5
IV 遺構	6
(1) I区	6
(2) II区	7
① 第1面	7
② 第2面	10
③ 第3面	10
(3) III区	11
① 第1面	11
SK30	13
SG2	13
② 第2面	15
SE5	15
SE6	16
SD3	17
SK91	17
③ 第3面	18
SK101	20
SE10, 11	21
(4) IV区	22
① 第1面	22
② 第2面	23
SD13	24
V 遺物	25
遺物観察表	33

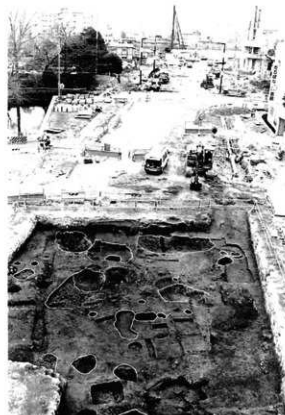
挿図目次

図1 周辺の遺跡	3
図2 周辺の地形と調査区	4
図3 SB1基礎平面図	6
図4 II区平面図	8
図5 SK20断面図	10
図6 III区西麓断面図	11
図7 III区第1面平面図	12
図8 SK30平面図	13
図9 SG2平面図	13
図10 III区第2面平面図	14
図11 SE5平面図	15
図12 SE6平面図	16
図13 SD3断面図	17
図14 SK91平面図	18
図15 III区第3面平面図	19
図16 SK101平面図	20
図17 SE10, 11断面図	21
図18 N区第1面平面図	22
図19 SD10断面図	23
図20 N区第2面平面図	24
図21 SD13断面図	24
図22 遺物実測図	25
図23 遺物実測図	26
図24 遺物実測図	27
図25 遺物実測図	28
図26 遺物実測図	29
図27 遺物実測図	30
図28 遺物実測図	31
図29 遺物実測図	32

I 調査に至る経緯

西暦2000年に市制施行100年を迎える高崎市は、「交流拠点都市」の建設をまちづくりのテーマとして様々な事業を進めている。さらに、北陸新幹線・北関東横断自動車道などの計画により高速交通網は発展が予想され、高崎市は様々な交流のできる場として様相を変えようとしている。高崎市だけでなく群馬県の玄関である高崎駅西口では県内初のペDESTリアンデッキを備えた駅前広場が整備され、駅周辺には再開発ビルが建ち並ぶ。一方、市中心部では市民ホール・ギャラリー棟、新市庁舎、新図書館からなるシティ・ホール建設が計画・施工されている。「高崎駅西口線・シンボルロード」は、都市機能が強化されつつある高崎駅西口と市中心部とを結ぶ道路として整備が進められている。完成後には市内の交通体系に大きな変化を与えることが予想される。

シンボルロード築造予定地の一部は、城址周辺土地画整理事業地区内にあり、その部分は土地画整理事業として工事が行われる予定となっていた。この地区の西側は堀を挟み高崎城址となり、多年度にわたる埋蔵文化財調査が既に実施され、古代から近代までの遺跡が確認されている。本地区においても遺跡の存在は確実であり、その中でも高崎城の外にはなるが近世における城下町に関連する遺構の存在が予想された。道路築造工事では路整改良などの工程により掘削が遺構面に達するため、埋蔵文化財発掘調査及び記録保存の実施が必要となった。そこで市教育委員会と市開発部区画整理1課と協議を重ねた結果、周辺住民の生活に支障のない範囲での調査を区画整理1課の委託により実施することとなった。



整備が進むシンボルロード

II 周辺の地形と遺跡

高崎市は関東平野の北端に位置し、古くから交通の要衝として栄えてきたところである。地形は低平な台地、沖積地および丘陵地よりなる。市内には北西部より南東部へ利根川水系の鳥川が貫流し、西部より流れる碓氷川、北東部を流れる井野川はその鳥川に合流する。

本遺跡の所在する高崎市榎町・鍛冶町・宮元町は、碓氷川との合流点よりやや下流の鳥川左岸台地上の東方約500mに位置する。榎町・鍛冶町は江戸時代からの地名で、高崎城築城時に集められた榎物職人・鍛冶職人が居住した町であり、宮元町は明治時代に成立した、江戸時代の米見町・代官町を合併した町である。

本遺跡西側は高崎城址となっている。高崎城は慶長3年（1598）幕命により井伊直政が箕輪から和田に移り築いたもので、その時に地名を高崎と改めた。高崎城築城以前は和田城があったところである。和田城関連遺物は、鳥川左岸崖上に櫓台跡を残すだけである。高崎城は開郭式構造の近世城郭であり、鳥川を自然の要害として築かれた。高崎城が完成し、城下の整備も完了したのは、安藤氏三代（重信・重長・重博）77年間（1619～1695）といわれている。現存する高崎城関連遺物は、三ノ丸堀・土塁、復元移築された乾櫓、シンボルロード予定地付近にあったと思われる東門だけとなっている。近年本遺跡周辺は、シティ・ホール建設をはじめ都市計画道路高崎駅西口線建設、都市再開発事業等が計画・施工されており、それら事業に伴う埋蔵文化財発掘調査も実施されている。その結果、古代から近世に至る遺跡が確認されている。各遺跡の概要は次ようになる。

高崎城Ⅰ遺跡（昭和60年度：市立高松中学校校舎建設）では、二ノ丸北西部の堀と土塁の基の一部を検出した。

高崎城Ⅱ遺跡（昭和61年度：高松中学校校庭造成）では、堀・土塁の基のほかに土塼、石製磨盤を検出した。

高崎城Ⅲ坪ノ樹形遺跡（昭和62年度：高崎駅西口線建設）では、二ノ丸坪ノ樹形の南の堀、平安時代の竈穴住居跡、古墳時代前期の土坑を検出した。

高松第一駐車場遺跡（昭和63年度：駐車場改築工事）では、大型建物跡、炭化物投入土坑、道路及び道路脇水路、溝状遺構、平安時代水田跡を検出した。

高崎城Ⅳ坪ノ樹形及び三ノ丸遺跡（昭和63年度：高崎駅西口線建設）では、昭和62年度に確認された坪ノ樹形と二ノ丸堀（幅約20m、深さ約5m）を引き続き検出した。

高崎城Ⅴ東門及び三ノ丸遺跡（平成元年度：高崎駅西口線建設）では、歩兵第十五連隊に係わる諸遺構、近世大型建物跡、中世の堀、平安・古墳時代の住居跡、弥生時代の方形周溝墓を検出した。また三ノ丸土塁の断面調査を行った。



1. 本遺跡
2. 和田城櫓台跡
3. 高崎城Ⅰ遺跡
4. 高崎城Ⅱ遺跡
5. 高崎城Ⅲ坪ノ樹形遺跡
6. 高松第一駐車場遺跡
7. 高崎城Ⅳ坪ノ樹形及び三ノ丸遺跡
8. 高崎城Ⅴ東門及び三ノ丸遺跡
9. 高崎城Ⅵ三ノ丸遺跡
10. 高崎城Ⅶ三ノ丸遺跡
11. 高崎城Ⅷ追手門遺跡
12. 高崎城Ⅸ三ノ丸遺跡
13. 高崎城Ⅹ堀の本郭遺跡
14. 榎町遺跡

図1 周辺の遺跡

高崎城Ⅵ三ノ丸遺跡（平成元年度：群馬シンフォニーホール建設）は高崎城Ⅴ遺跡に隣接しており、近代・近世の土坑、中世の堀、平安時代の住居跡、古墳時代の溝を検出した。

高崎城Ⅶ・Ⅸ三ノ丸遺跡（平成2～3年度：シティホール建設）では、歩兵第十五連隊に係わる諸遺構、東京顕台高崎分宮に係わる遺構、近世の地下室、多数の井戸・土坑、中世の堀、古墳跡を検出した。高崎城Ⅳ遺跡より続く二ノ丸堀の底から埴子堀、堰状遺構が確認された。

高崎城Ⅷ追手門遺跡（平成2年度：郵便局建替）では、高崎城追手門北脇を流れていたと思われる水路を検出した。三ノ丸土塁の断面調査も行っている。

高崎城Ⅹ堀の本郭遺跡（平成3年度：裁判所増築）では、石組土坑を含む貯蔵庫跡、池状遺構、井戸、溝を検出した。また、多数の中世遺物が出土している。

榎町遺跡（平成2年度：市開発ビル建設）では、古伊万里をはじめ多数の近世陶磁器を検出している。

Ⅲ 調査の方法と経過

(1) 調査の方法

今回の調査は城址周辺上地区画整理事業地区内における都市計画道路高崎駅西口線築造予定地を対象とした。高崎駅西口線は平成4年度に部分開通するため、調査は平成3年度に終了しなければならず、調査実施が可能な場所から進めることとなった。

調査対象地をほぼ中央を通る仲通り線により東西に分け、東側を第一期、西側を第二期として調査を予定した。しかし、第一期調査予定地は既に仮設道路として供用を開始しており、この道路に面して営業を行っている企業や生活道として使用している世帯もあった。また、高崎駅に続く道として交通量も多くなっていた。そのため高崎警察署交通課・高崎市區画整理1課と協議し、周辺に支障を来さない範囲で発掘調査を実施することとなった。第一期では、I区10.2㎡、II区98.4㎡を調査した。

第二期調査予定地では、西端を通るお堀端通り線の交通を止めることができないため、仲通り線とお堀端通り線との間に調査を限定した。しかし、その中のほぼ中央に区画整理事業による移転が完了していない家が軒残っており、その家の生活権を確保しながら調査を実施しなければならず、第二期予定地中の西側を中心に調査を進めることになった。また、残っていた家の移転が完了し次第、調査実施範囲を期間的に可能な限り広げることとした。第二期では、III区243.4㎡、IV区34.2㎡を調査した。



図2 周辺の地形と調査区

周辺の遺跡の調査成果より、本遺跡においても古代から近世・近代にわたる遺構の存在が予想された。そのため掘削時に遺構が確認され次第調査し、さらに下層の遺構面まで掘削し調査することとなり、I区では1面、II・III区3面、IV区2面の調査になった。

調査では、国土地院第IX系に従い記録を実施した。第一期調査では任意座標系を設置し、その座標値と国土地院座標値を参照した。第二期調査では調査区内に国土地院座標値を有する基準杭を設置し調査を行った。

(2) 調査の経過

平成3年		1月30日	現地にて区画整理1課、工事施工業者と打ち合わせ
8月20日	高崎市区画整理1課と協議		
23日	高崎警察署交通課と協議	2月1日	資材搬入、発掘作業準備
28日	現地にて区画整理1課、工事施工業者と打ち合わせ	5日	Ⅲ区直機掘削開始
9月17日	資材搬入、発掘作業準備	8日	Ⅲ区第1面調査
18日	第一期調査開始	12日	基準点測量
	重機掘削開始（雨天の為中断）		高所作業車を使用して写真撮影
20日	Ⅱ区第1面調査	13日	Ⅲ区第1面実測
24日	任意座標系設置、実測開始	17日	Ⅲ区第2面掘削・調査
30日	Ⅰ区調査	27日	高所作業車を使用して写真撮影
	Ⅱ区第2面掘削		Ⅲ区第2面実測
10月2日	Ⅱ区第2面調査	3月2日	Ⅲ区第3面掘削
8日	遺構内の排水作業及び精査		残っていた家が移転したため、調査区拡張（As-B.P.確認）
9日	Ⅱ区第2面平面図実測開始	4日	Ⅲ区第3面調査
11日	この頃天候に恵まれず、この日も大雨	11日	Ⅳ区第1面掘削（As-B.P.確認）
14日	天候回復し調査再開	17日	Ⅲ・Ⅳ区高所作業車で写真撮影
16日	Ⅱ区第3面掘削	18日	雪の為屋外作業中止
17日	Ⅱ区第3面調査、平面図実測	20日	Ⅲ区第3面・Ⅳ区第1面実測
18日	第一期調査終了	23日	Ⅳ区第2面掘削
			整理作業開始
平成4年		24日	Ⅳ区第2面調査
1月14日	都市計画道路高崎駅西口線築造 工事工程調整会議（高崎市役所）	25日	Ⅳ区第2面実測
			現地での調査終了

IV 遺構

(1) I 区

I 区は近隣の駐車場の出入口を確保するために、10.2㎡という狭い範囲の調査区となった。

SB 1 は I 区の東半分より検出された。表土を剥いでいくと、まず約30cm角の切石が2個不安定状態で置かれていた。その切石を取り除き、覆土を削ぐと、樹皮が付いたままの板が敷かれており、その周りには石が散布していた(図3-上)。板は樹皮を上側にしており、底に腐食していた。さらに板を取り除くと、丸太が2〜3本1組で3ヶ所基礎杭として打ち込まれており、その周りには川原石が敷かれていた(図3-下)。杭は深く打ち込まれていたため、形状、長さは不明である。最初に検出された切石の置かれていた位置はこの杭の上にあたる。

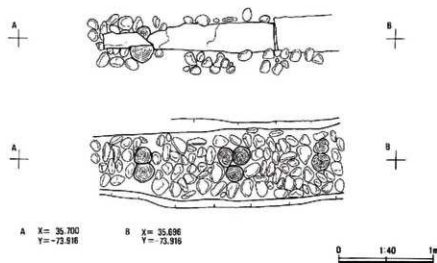


図3 SB 1 基礎平面図

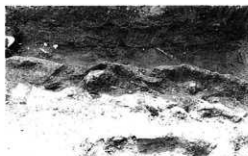


SB 1 基礎 (板)



SB 1 基礎 (丸太・石)

I 区南西側からは、浅間山A軽石を覆土とする溝状遺構列が検出された。東側をSB 1 基礎に切られ、北側は擾乱されていた。溝は東西方向に延び、形状は幅35〜50cm、深さ20〜25cmであり、溝と溝との間隔は4〜15cmと狭いものであった。溝の底部からは、陶磁器片、瓦片、播り鉢片などが検出された。覆土のA軽石は、細かく丸い粒子を含む二次堆積層である。この溝列の底部、A軽石下の土には数個の石が含まれていることから耕作列とは考えづらく、また狭い範囲から多数の廃棄されたと思われる遺物も検出されていることから、A軽石とともに廃棄物を処理した溝と考えられる。



溝状遺構列 (北より)



溝状遺構列 (西より)

(2) II 区

① 第1面

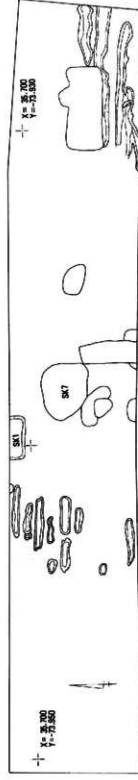
II 区は、第一期調査対象地内で仮設道路の交通を妨げないように細長く設定し、98.4㎡を調査した。第1面では、浅間山A軽石を覆土とする溝状遺構列が確認された面において検出された遺構の調査を実施した。溝状遺構列は、東端と西側の2ヶ所確認された(図4)。規模は、幅が東端では30〜40cm、西側では20〜30cm、深さが共に確認面より5〜10cm、方向も共に東西向きである。遺構内からは遺物は検出されなかったが、I 区と同様のものと考えられる。



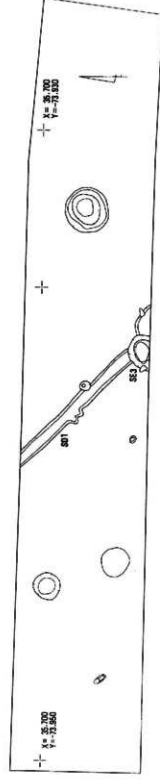
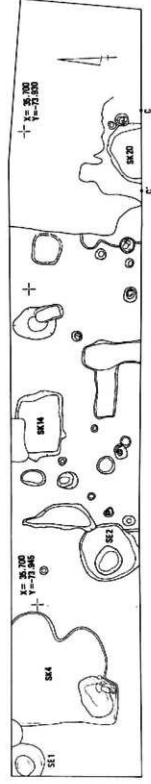
溝状遺構列 (東端)



溝状遺構列 (西側)



- 8 -



- 9 -



図4 II区平面図（上より第1・2・3面）

② 第2面

第2面からは、井戸、土坑、ピットを検出した。井戸は、確認面からの深さがSE1で110cm、SE2で91cmと共に浅く、調査時には湧水はなかった。

SK20は調査区外にも広がるが、直径約150cmの円形を呈すると思われる。底部には多数の石が散布し、深さは24cmであった。陶磁器、瓦、土器片が出土している。

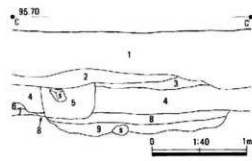


図5 SK20断面図

1. 現況道路路盤
2. 灰褐色土 多数のA軽石・少量の炭化物を含む。
3. 灰褐色土 粒子の細かいA軽石
4. 灰褐色土 A軽石・炭化物・小丸礫を含む。
5. 暗灰褐色土 A軽石を多量に含む。
6. 黄褐色土 B軽石・ローム粒を含む。
7. 褐色土 B軽石を多量に含む。
8. 灰褐色土 A軽石・炭化物・焼土粒を含み、やや粘性がある。(SK20覆土)
9. 淡灰褐色土 A軽石・炭化物を含み、8層より粘性が強い。(SK20覆土)

③ 第3面

第3面からは、井戸、土坑、溝、ピットを検出した。SE3は、深さが確認面より183cm、直径106cm、上部よりやや緩やかに落ち、くびれを持ち下部で広がっていた。

SD1は、II区中央を北西-南東方向に延びていた。形状は幅約40cm、深さ21cmで、溝底部の高低差はほとんどなかった。



II区第2面全景



SK20



SK20遺物出土状況



III区第3面全景

(3) III区

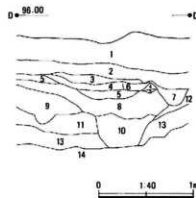


図6 III区西壁断面図

1. 砕石を含む盛土
2. 黒褐色土 多数のA軽石を含む。
3. 黒褐色土 A軽石・炭化物を含む。
4. 二次堆積A軽石層（粒子の粗いものと細かいものとが混じる）
5. 二次堆積A軽石層（細かく、丸い粒子：SD2覆土）
6. 黒褐色土 A軽石が混じる。
7. 黒褐色土 多数のA軽石・炭化物を含む。
8. 黒褐色土 炭化物・小礫を含む粘土層
9. 黒褐色土 少量のA軽石・ローム粒・炭化物を含む。
10. 黒褐色土 細砂・炭化物を含む粘土層（SD5覆土）
11. 黒褐色土 細砂・ローム粒を含む粘土層
12. 黒褐色土 焼土を含む。
13. 黒褐色土 多数のローム粒・ロームブロックを含む。
14. 黄褐色土 ローム層

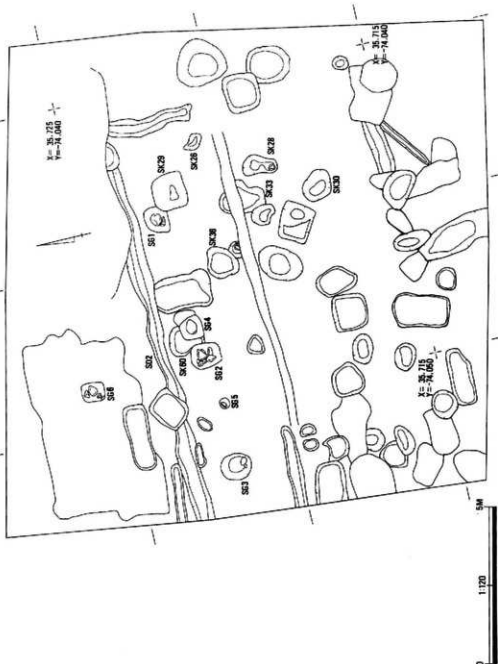
① 第1面



III区第1面全景

III区第1面では、土坑、井戸、溝、建物礎石、不明遺構を確認した。土坑は多数の浅間山A軽石を含む層を覆土とするものを含め48基検出した。SD2は二次堆積のA軽石に覆われており、幅が35~70cm、深さ10~15cmの形状で東西方向に延びていた。

図7 III区第1面平面図



SK30

本遺構は、Ⅲ区のはば中央に位置する。長軸106cm、短軸74cmの不整形形を呈しており、深さは18cmであった。覆土は浅間山A軽石を多量に含んでおり（A軽石が主体の覆土）、底部から瓦、近世・近代陶磁器が検出された。SK26,28,29,33,36,60においても同様に、覆土に多量のA軽石が含まれていた。



SK30

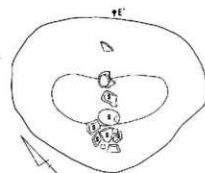
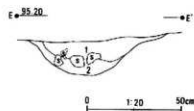


図8 SK30平面図

SG2



1. 黒褐色土 多量のA軽石・少量の炭化物を含む。
2. 黒褐色土 1cm前後の炭化物を含む粗砂層

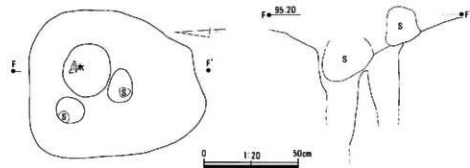


図9 SG2平面図

本遺構は長軸92cm、短軸78cm不整形を呈し、遺構面には大きめの石の周りに大きめの揃わない6個の石が置かれていた。石の下部には3本の穴があり（上図左）、中から木片が検出された。穴の深さは1m以上になり、枕を打った跡と思われる。同様な構造のSG3, 6は、間隔が3.6mと広いものの、SG2を頂点にはば直角に位置し同一建物の礎石と思われる。

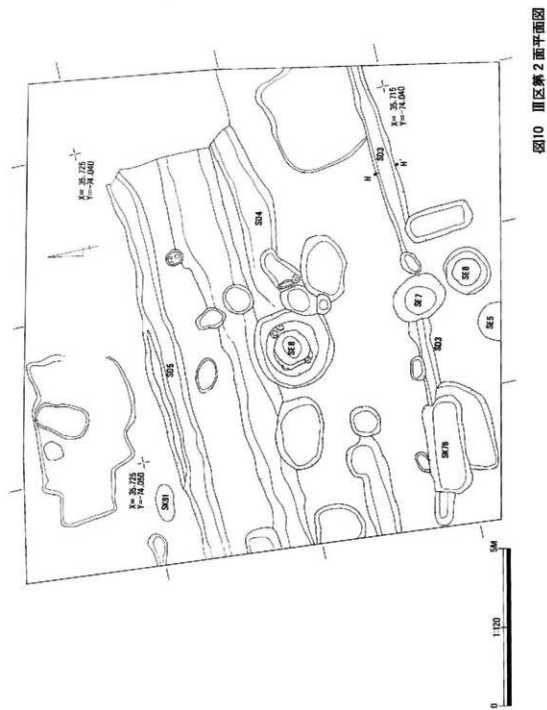


図10 III区第2面平面図

② 第2面



III区第2面全景

第2面では、井戸、溝、土坑、不明遺構を確認した。4基検出した井戸は、深さが150cm前後であったが調査時に湧水はなかった。4基検出した溝は、形状は違うもののすべて東西方向に延びており、地割の影響が考えられる。

SE 5

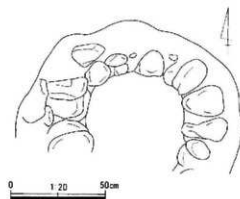


図11 SE 5平面図

本遺構は、III区南端に位置する。遺構の範囲が調査区外にまで広がるため断面・底までの調査が実施できず、深さ・底径は不明である。口径は115cmの石組の井戸であるが、石組は上部だけに施されたものと思われる。石組部分の直径は50cmになる。遺物は、焼塩壺、焙烙、上層から瓦、近代以降の陶磁器が出土している。



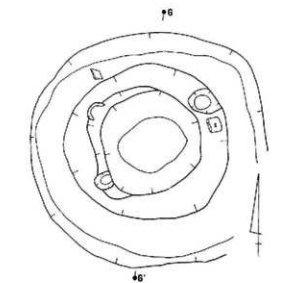
SE 5



SE 6

SE 6

本遺構は、Ⅲ区中央に位置する。規模は口径250cm、底径70cm、深さ145cmとなり、円形を呈する。形状は、井戸上部ではなだらかに広がり、約15cm下がると多少傾斜が急になり、井戸下部では垂直に落ち、底はほぼ平坦になる。遺構確認面より約40cm下部の井戸中段から3基のビットを検出した。ビットは、井戸中心の北東、北西、南西に位置する。南東部分は擾乱されており、ビットは検出されなかった。



40°

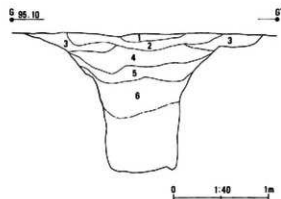
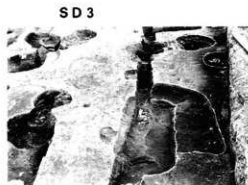


図12 SE 6 平面図

1. 暗褐色土 A軽石・炭化物を含む。
2. 明黄褐色土 ロームと黒褐色粘土が混じる。
3. 暗褐色土 ローム粒・A軽石・炭化物を含む。
4. 暗褐色土 細砂と粘土が混じる。少量のローム粒を含む。
5. 黒褐色土 ブロック状の粘土・10cmの礫・多量のローム粒を含む細砂層。
6. 暗褐色土 ローム粒・ロームブロック・粘土ブロック・15cmの礫を含む細砂層



SD 3 (西側)



SD 3 (東側)



SD 3 遺物出土状況



SD 3 遺物出土状況

本遺構はⅢ区南側に位置する(図10)。規模は幅50~70cm、深さ30~40cmとなり、中央でやや北側に曲がりながら東西方向に延び、西側は途切れる。溝は中央部分で東側より高くなり不明瞭になる。高くなりはじめた部分から不明瞭になる部分までの間より多数の石が検出された。石はS K 76と重複する部分でも確認され、他にも数個散布していた。不明瞭部分の西側はS E 7と重複しているため形態は不明である。遺物は溝底より瓦、陶器碗、磁器瓶が出土している。この溝は、地上構造物との関連が考えられる。

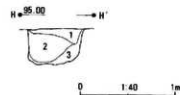


図13 SD 3 断面図

1. 黒褐色土 少量のA軽石・小礫を含む。
2. 黒色土 A軽石・炭化物・焼土粒を含む。
3. 黒褐色土 多少の粘性があり、少量のA軽石を含む。

SK 91

本遺構はⅢ区北西側に位置する。長軸117cm、短軸54cmの楕円形を呈する。深さは10cmと浅く、底は平坦であった。遺物は陶磁器、瓦、鉄・銅製品が出土している。

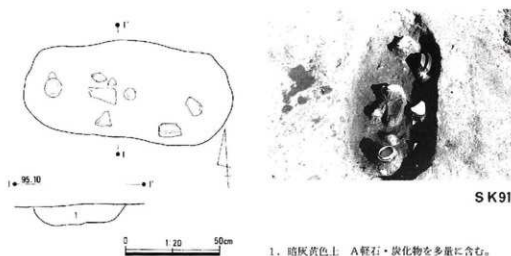


図14 S K91平面図

1. 結灰黄色土 A軽石・炭化物を多量に含む。

③ 第3面



Ⅲ区第3面全景

第3面では井戸、土坑、住居跡と思われる遺構、不明遺構を検出した。東に拡張した部分では浅間山B軽石の堆積を確認し、井戸、溝、不明遺構を検出した。S K89は覆土下層が灰・炭

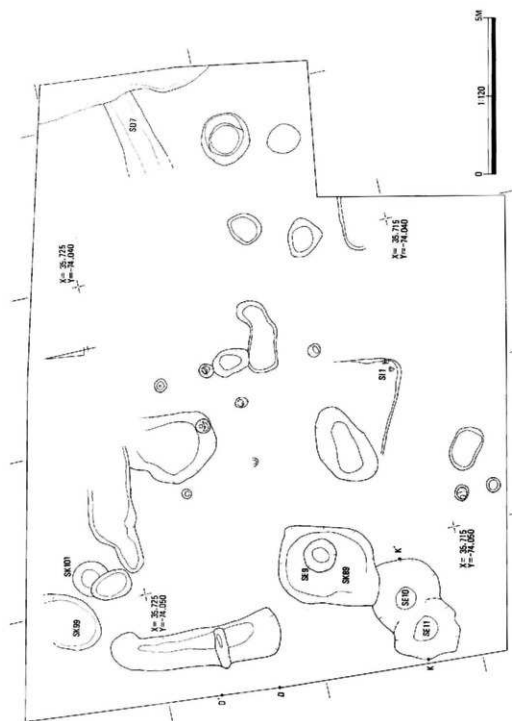


図15 Ⅲ区第3面平面図

化物の層であり、その中より多数の陶磁器が出土した。また、SK89の底からはSE9が確認された。SK99からは多数の土師器片が出土した。S11は住居跡の南東の壁と思われる遺構であるが、残存状況は悪く規模は不明である。B軽石堆積面より検出した各遺構はB軽石降下以降のものであり、SD7の覆土には多量のB軽石が混入していた。

SK101

本遺構はⅢ区北西側に位置し、南西部分をSK97に切られる。規模は直径111cmの円形を呈するものと思われ、深さは65cmであった。形状は底部の広い盛り鉢状であり、底部はほぼ平坦であったが中心に向かって多少窪んでいた。遺物は底部より小型壺が出土し、他には台付甕の台部などの土師器片が多数検出された。

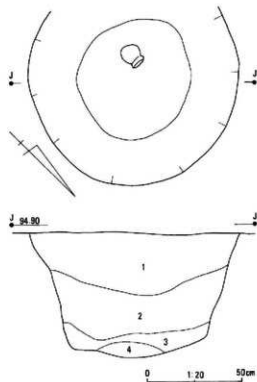


図16 SK101平面図

1. 黒褐色土 ローム粒・多量のC軽石を含む。
2. 黒色土 C軽石・ローム粒・ローム小ブロック（5cm前後）を含む。
3. 黒色土 ローム粒を少量含む粘土層
4. 暗褐色土 ローム粒を多量に含む崩れやすい層



SK101



SK101遺物出土状況

SE10, 11

両遺構はⅢ区南西隅に位置し、重複して検出された（図15）。新しいSE11が古いSE10の南西部分を切っている。SE10は北東部分をSK89にも切られている。形状はSE10の平面形は円形を呈し、断面形はロート状になっていた。SE11の平面形は不整形円形を呈し、断面形も不整形で口縁から底まで斜めに落ちていた。規模はSE10が口径208cm、底径63cm、深さ196cm、SE11が口径約176cm、底径約73cm、深さ171cmである。遺物はSE10より須恵系・土師器片、SE11より陶磁器、瓦などが出土している。両井戸とも調査時に底付近の高さで湧水している。

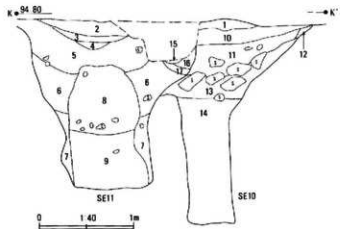
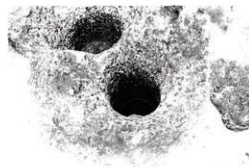


図17 SE10, 11断面図

1. 灰黄色土 シルト主体の層
2. 褐灰色土 ローム粒を含む微砂層
3. 灰色土 ローム粒を含み、粘性のややある層
4. 灰色土 ローム粒を含み、粘性のある層
5. 灰色土 多量のローム粒・ローム小ブロック（1cm以下）・少量の炭化物を含む。
6. 灰色土 5層と同様であるが、ロームを含む量が少ない。
7. 灰色土 ローム粒・灰黄色シルトブロック（3～5cm）を含む。
8. 緑灰色土 ローム小ブロック（1～3cm）・小礫（3～10cm）を多量に含む。
9. 緑灰色土 8層と同様であるが、灰黄色シルトブロック（5～10cm）を含み、粘性がある。
10. 灰黄色土 ローム粒・灰黄色シルトブロック（2cm）を含む。
11. 灰色土 多量のローム粒・少量の炭化物を含む。
12. 灰黄色土 少量のローム粒を含む層
13. 灰色土 20cm前後の礫を多量に含む。
14. オリーブ黒色土 ローム凝じりの粘性のある層
15. 灰色土 少量のローム粒を含む粘土層
16. 灰色土 少量の炭化物を含む粘土層



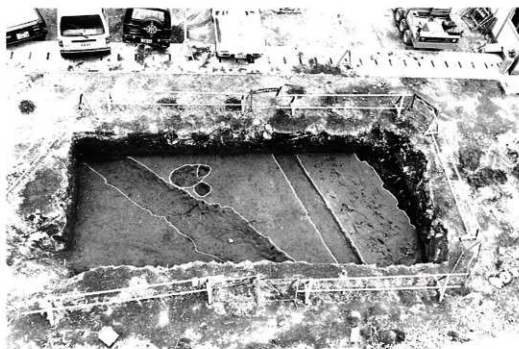
SE10



SE11

(4) IV区

① 第1面



IV区第1面全景

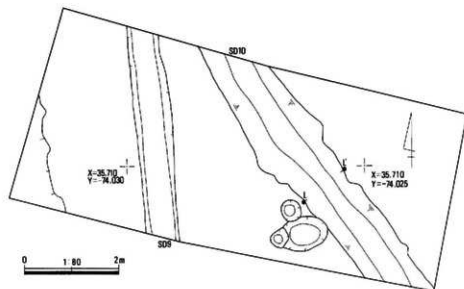


図18 IV区第1面平面図

IV区第1面からは田区拡張部分と同様に浅間山B軽石の堆積が確認された。遺構は、B軽石堆積層を切る溝、土坑、ピットを、B軽石堆積下からは溝を1条検出した。B軽石下より検出されたS D10は北西—南東方向に延び、規模は幅110～150cm、深さ20cmであった。溝以外のB軽石堆積下面からは、田区拡張部分と同様に小さな凹凸はあるものの他に遺構は検出できず、水田を含む耕作跡も確認されなかった。B軽石を切るS D9は、S D10の西側に位置し南北方向に延びる。規模は幅70～80cm、深さ約12cmであった。

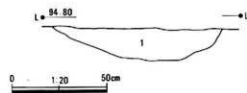


図19 S D10断面図

1. B軽石層



S D10

② 第2面



IV区第2面全景

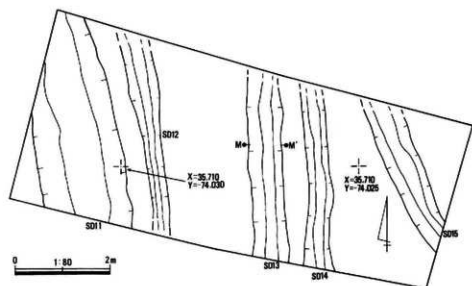


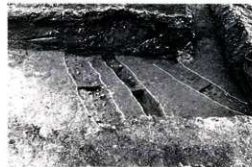
図20 IV区第2面平面図

ローム層まで掘削した第2面からは、5条の溝を検出した。共に遺物の出土数は少なく、SD15以外はほぼ南北方向に延びていた。SD11は幅180cm、深さ55cmと他の溝より規模の大きいものであった。SD14は規模は幅50cm、深さ25cmであり、流砂で覆われていた。

SD13

本遺構はIV区中央に位置し、南北方向に延びる。規模は幅75cm、深さ15cmであった。遺物は須恵器甕・壺の口縁部などが出土している。

1. 黒褐色土 ローム粒を含む粘土主体層
2. 暗褐色土 ローム粒・ロームブロックを含む粘土層



SD13~15

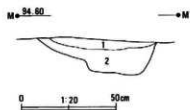


図21 SD13断面図



SD13遺物出土状況

V 遺物



図22 遺物実測図



图23 遗物实测图



图24 遗物实测图

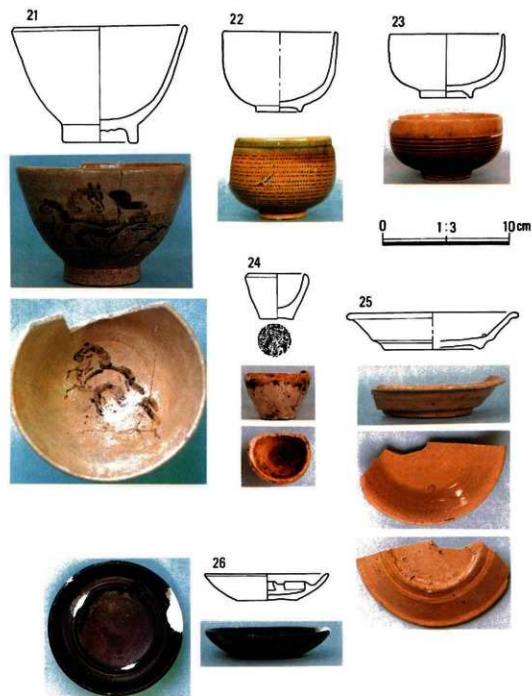


图25 遗物实测图

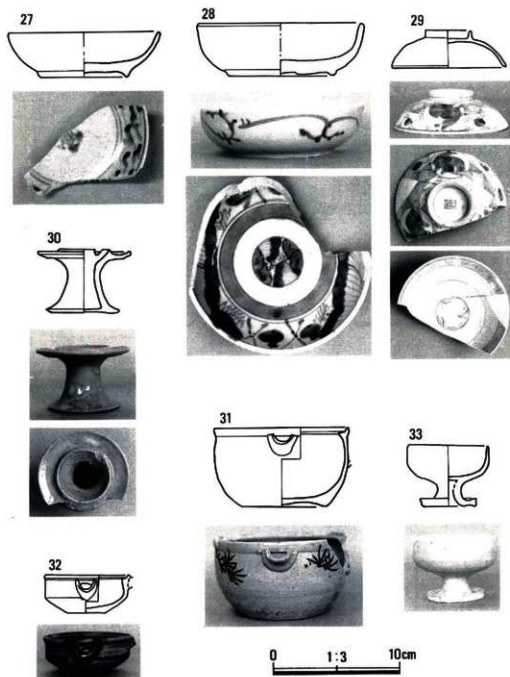


图26 遗物实测图

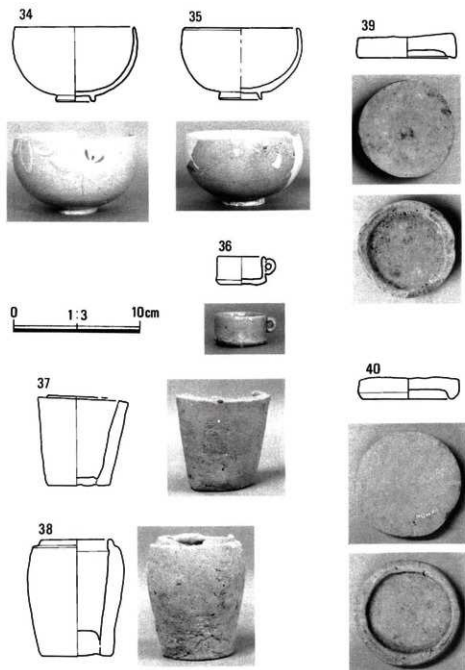


图27 遺物実測図

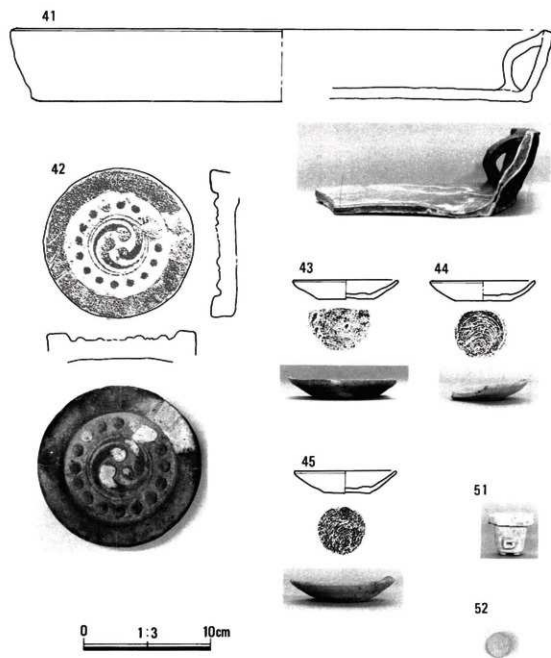


图28 遺物実測図

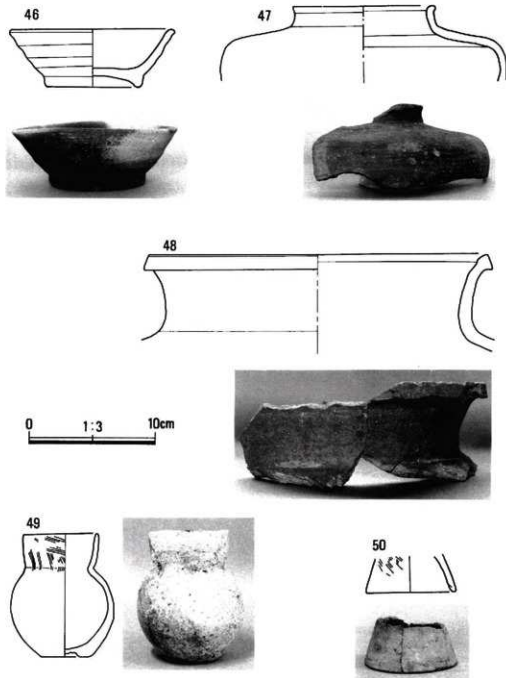


図29 遺物実測図

表1 遺物観察表

(図): 断面

番号	器名	数量 (cm)	出土	発見	色澤	特徴	備考
46	色絵鉢	1	①径 16.1 ②径 16.1 ③高 5.7			・ 絵ノ目 500円高 ・ 器底に「田」の字と取付 ・ 器内に「東洋美術」の銘 ・ 器底に「東洋美術」の銘 ・ 器底に「東洋美術」の銘	5月20日出土 断面1/2欠損
47	染付碗	2	①径 9.7 ②径 9.7 ③高 4.7			・ 中ノ葉子の片断 ・ 器底に「田」の字と取付 ・ 器底に「東洋美術」の銘 ・ 器底に「東洋美術」の銘	1/2欠損
48	染付碗	3	①径 9.9 ②径 9.9 ③高 4.9			・ 土器 ・ 器底に「田」の字と取付 ・ 器底に「東洋美術」の銘 ・ 器底に「東洋美術」の銘	5月20日出土
49	染付碗	4	①径 9.1 ②径 9.1 ③高 4.7			・ 器底に「田」の字と取付 ・ 器底に「東洋美術」の銘 ・ 器底に「東洋美術」の銘	断面1/2欠損
50	染付碗	5	①径 10.1 (横) ②径 10.1 (横) ③高 2.9			・ 器底に「田」の字と取付 ・ 器底に「東洋美術」の銘 ・ 器底に「東洋美術」の銘	断面1/2欠損
51	染付碗	6	①径 10.1 (横) ②径 10.1 (横) ③高 2.9			・ 器底に「田」の字と取付 ・ 器底に「東洋美術」の銘 ・ 器底に「東洋美術」の銘	断面1/2欠損
52	染付碗	7	①径 10.1 (横) ②径 10.1 (横) ③高 2.9			・ 器底に「田」の字と取付 ・ 器底に「東洋美術」の銘 ・ 器底に「東洋美術」の銘	断面1/2欠損
53	染付碗	8	①径 10.1 (横) ②径 10.1 (横) ③高 2.9			・ 器底に「田」の字と取付 ・ 器底に「東洋美術」の銘 ・ 器底に「東洋美術」の銘	断面1/2欠損
54	染付碗	9	①径 10.1 (横) ②径 10.1 (横) ③高 2.9			・ 器底に「田」の字と取付 ・ 器底に「東洋美術」の銘 ・ 器底に「東洋美術」の銘	断面1/2欠損
55	染付碗	10	①径 10.1 (横) ②径 10.1 (横) ③高 2.9			・ 器底に「田」の字と取付 ・ 器底に「東洋美術」の銘 ・ 器底に「東洋美術」の銘	断面1/2欠損
56	染付碗	11	①径 10.1 (横) ②径 10.1 (横) ③高 2.9			・ 器底に「田」の字と取付 ・ 器底に「東洋美術」の銘 ・ 器底に「東洋美術」の銘	断面1/2欠損
57	染付碗	12	①径 10.1 (横) ②径 10.1 (横) ③高 2.9			・ 器底に「田」の字と取付 ・ 器底に「東洋美術」の銘 ・ 器底に「東洋美術」の銘	断面1/2欠損
58	染付碗	13	①径 10.1 (横) ②径 10.1 (横) ③高 2.9			・ 器底に「田」の字と取付 ・ 器底に「東洋美術」の銘 ・ 器底に「東洋美術」の銘	断面1/2欠損
59	染付碗	14	①径 10.1 (横) ②径 10.1 (横) ③高 2.9			・ 器底に「田」の字と取付 ・ 器底に「東洋美術」の銘 ・ 器底に「東洋美術」の銘	断面1/2欠損
60	染付碗	15	①径 10.1 (横) ②径 10.1 (横) ③高 2.9			・ 器底に「田」の字と取付 ・ 器底に「東洋美術」の銘 ・ 器底に「東洋美術」の銘	断面1/2欠損
61	染付碗	16	①径 10.1 (横) ②径 10.1 (横) ③高 2.9			・ 器底に「田」の字と取付 ・ 器底に「東洋美術」の銘 ・ 器底に「東洋美術」の銘	断面1/2欠損
62	染付碗	17	①径 10.1 (横) ②径 10.1 (横) ③高 2.9			・ 器底に「田」の字と取付 ・ 器底に「東洋美術」の銘 ・ 器底に「東洋美術」の銘	断面1/2欠損
63	染付碗	18	①径 10.1 (横) ②径 10.1 (横) ③高 2.9			・ 器底に「田」の字と取付 ・ 器底に「東洋美術」の銘 ・ 器底に「東洋美術」の銘	断面1/2欠損
64	染付碗	19	①径 10.1 (横) ②径 10.1 (横) ③高 2.9			・ 器底に「田」の字と取付 ・ 器底に「東洋美術」の銘 ・ 器底に「東洋美術」の銘	断面1/2欠損
65	染付碗	20	①径 10.1 (横) ②径 10.1 (横) ③高 2.9			・ 器底に「田」の字と取付 ・ 器底に「東洋美術」の銘 ・ 器底に「東洋美術」の銘	断面1/2欠損
66	染付碗	21	①径 10.1 (横) ②径 10.1 (横) ③高 2.9			・ 器底に「田」の字と取付 ・ 器底に「東洋美術」の銘 ・ 器底に「東洋美術」の銘	断面1/2欠損
67	染付碗	22	①径 10.1 (横) ②径 10.1 (横) ③高 2.9			・ 器底に「田」の字と取付 ・ 器底に「東洋美術」の銘 ・ 器底に「東洋美術」の銘	断面1/2欠損
68	染付碗	23	①径 10.1 (横) ②径 10.1 (横) ③高 2.9			・ 器底に「田」の字と取付 ・ 器底に「東洋美術」の銘 ・ 器底に「東洋美術」の銘	断面1/2欠損
69	染付碗	24	①径 10.1 (横) ②径 10.1 (横) ③高 2.9			・ 器底に「田」の字と取付 ・ 器底に「東洋美術」の銘 ・ 器底に「東洋美術」の銘	断面1/2欠損

陶器小皿	25	口径 13.7(釐) 底径 7.7(釐) 高さ 3.6				・底面に「雲」を模した紋あり ・口縁部は内凹する ・底面黒漆17℃	1/2尺類
灯明皿	26	口径 16.0 底径 4.8 高さ 9.1				・底面黒漆 ・底面黒漆19℃	
陶器小皿	27	口径 13.9(釐) 底径 7.0(釐) 高さ 3.5				・くちわんか小皿 ・底面黒漆 ・底面黒漆17℃	1区横溝遺跡 竹田寺 要蔵
漆付小皿	28	口径 13.3(釐) 底径 8.4 高さ 1.1				・漆塗りのくちわんか小皿 ・底面黒漆 ・底面黒漆17℃	5区4段土 横溝1/2尺類
漆付皿	29	口径 9.3 底径 5.0 高さ 3.0				・底面内に「南」の刻 ・底面に磨蝕した松竹梅内面文 ・底面黒漆17℃	横溝1/2尺類
灯明皿	30	口径 7.4 底径 5.8 高さ 5.0				・漆付漆文 ・底面黒漆	5区19段土
陶器平鉢	31	口径 11.8 底径 6.8 高さ 8.3				・底面 ・底面 ・底面	5区1段土 越中漆分文類
陶器平鉢	32	口径 7.0 底径 3.0 高さ 3.0				・底面 ・底面 ・底面	5区横溝土 越中漆分文類
陶器仏具	33	口径 6.4 底径 4.3 高さ 4.9				・底面 ・底面 ・底面	5区4段土 横溝1/2尺類
陶器碗	34	口径 9.8 底径 3.1 高さ 9.9				・底面黒漆 ・底面黒漆 ・底面黒漆	5区4段土 横溝1/2尺類
陶器碗	35	口径 9.3(釐) 底径 3.5 高さ 9.9				・底面黒漆 ・底面黒漆 ・底面黒漆	横溝2/3尺類
陶器鉢入	36	口径 3.9 底径 4.0 高さ 3.2				・底面黒漆 ・底面黒漆 ・底面黒漆	
新瓦	37	口径 8.7(釐) 底径 7.1 高さ 7.1	砂粒赤む	黒砂	褐色	・底面黒漆 ・底面黒漆 ・底面黒漆	横溝1/3尺類
焼瓦	38	口径 5.8 底径 5.8 高さ 9.9	砂粒、小 粒赤む	黒砂	にぶい 褐色	・底面黒漆 ・底面黒漆 ・底面黒漆	5区5層土 横溝土
焼瓦	39	口径 7.8 底径 3.0 高さ 9.9	砂粒赤む	黒砂	にぶい 褐色	・底面黒漆 ・底面黒漆 ・底面黒漆	
焼瓦	40	口径 8.0 底径 3.7 高さ 9.9	砂粒赤む	黒砂	にぶい 褐色	・底面黒漆 ・底面黒漆 ・底面黒漆	
焼瓦	41	口径 43.4(釐) 底径 43.0(釐) 高さ 9.7	砂粒赤む	黒砂	暗灰色	・底面黒漆 ・底面黒漆 ・底面黒漆	5区5層土 横溝土
研瓦	42	口径 11.8	砂粒赤む	やや黒		・底面黒漆 ・底面黒漆 ・底面黒漆	1区横溝遺跡 竹田寺
かわらけ	43	口径 8.3 底径 4.0 高さ 1.5	砂粒赤む	黒砂	にぶい 褐色	・底面黒漆 ・底面黒漆 ・底面黒漆	5区14段土 1/2尺類
かわらけ	44	口径 8.3(釐) 底径 4.2 高さ 1.5	砂粒赤む	黒砂	褐色	・底面黒漆 ・底面黒漆 ・底面黒漆	5区14段土 2/3尺類
かわらけ	45	口径 8.1 底径 3.7 高さ 1.9	砂粒赤む	黒砂	褐色	・底面黒漆 ・底面黒漆 ・底面黒漆	5区7段土 1/3尺類
焼瓦	46	口径 7.8 底径 4.5	砂粒赤む	やや黒	暗灰色	・底面黒漆 ・底面黒漆 ・底面黒漆	
大瓦葺き 遺跡	47	口径 11.4(釐)	砂粒赤む	黒砂	暗灰色	・底面黒漆 ・底面黒漆 ・底面黒漆	5区15段土 (24-17) 一帯
焼瓦	48	口径 20.0(釐)	砂粒赤む	やや黒	暗灰色	・底面黒漆 ・底面黒漆 ・底面黒漆	5区13段土 1/3尺類
小瓦葺き 土器	49	口径 6.0 底径 3.7 高さ 8.2	砂粒赤む	黒砂	暗灰色	・底面黒漆 ・底面黒漆 ・底面黒漆	5区101出土
漆付 土器	50	口径 7.2	砂粒赤む	黒砂	暗灰色	・底面黒漆 ・底面黒漆 ・底面黒漆	5区103出土
土製 土器	51	口径 3.0				・底面黒漆 ・底面黒漆 ・底面黒漆	5区78出土
漆 土器	52	口径 1.8				・底面黒漆 ・底面黒漆 ・底面黒漆	5区101出土

高崎市文化財調査報告書第125集

高崎城下町遺跡

平成5年3月印刷

平成5年3月発行

編集者 高崎市教育委員会

文化振興課埋蔵文化財係

発行者 高崎市教育委員会

印刷所 野島印刷株式会社

